

暖かい愛情、有難うございました

酒 井 龍 一

白石太一郎先生。この五年間、奈良大学文化財学科に暖かい愛情を注いで下さりまして、本当に有難うございました。その端正なお姿が学舎に登場されると同時に、まことに気の引き締まる思いになりました。教員・学生共々、拝受した様々な学恩は、われわれの心に強く刻ませていただきました。奈良大学を離れられても、近隣に御在住でもあり、これまで同様、変わらぬ御厚情をお願い申し上げます。

思い返せば、長きにわたり、わが文化財学科の屋台骨であった水野正好先生の御定年が近づきつつあった時、いつとはなく、誰とはなく、その御後任として白石太一郎先生のお名前が上がるようになりました。否、白石先生しかないだろうというのが当時の実感でした。同じ頃、文化財学科の泉拓良先生が京都大学に御転出されることになり、急遽、受け入れの物理的条件が整ってきました。しかしながら、遠く千葉県の国立歴史民俗博物館副館長としての重要な御勤務もあると同時に、御家族共々、既に首都圏に永住される決心をもされているという噂も伝わってきました。当然ながら、同博物館の御定年をお待ちするとしても、現実には、遠く奈良の地にお越しいただくことの可能性が皆無でないかという疑問も生じていました。救いの条件は、白石先生の御出身が大阪であること、母校が京都であること、加えて、古墳研究の第一人者である先生にとって、大和が最愛の地であるに違いないとの勝手な憶測等でした。われわれの思いを携えて千葉に赴かれた東野治之先生の人徳も重なってか、幸いにも、奈良大学文化財学科赴任OKとのお気持ちとのことでありました。

奈良大学に赴任されて以降の学内事情は、予想もされなかった多事多忙の連続で、白石先生の心の内は「苦笑い」の連続であったに違いありません。まことに申し訳ないことでした。最後に、先生の御健康をお祈りしつつ、感謝の言葉とさせていただきます。

人生はいいな ここにも愛がある 龍一

